

2025年度人間社会科学研究科入試問題（第2次）

哲学（出題意図及び解答）

（社会創成専攻 人文社会コース一般入試A）

〈1〉 哲学的な議論を展開している日本語の文章を題材とし、各問において次に掲げる点を問うことを意図しています。

問1 文章中の表現の意味を、文脈に即して正しく説明できるかどうかを問う問題です。

【解答例】善には単一のあり方しか存在せず、それが欠如していることがすなわち悪であるから、なにかが善であることの否定はそれが悪であることを含意するが、善が欠如する仕方は多様であり、その多様性に応じて様々な悪が存在するから、なにかがある種の悪であることを否定しても、それが他のなんらかの悪である可能性までは排除できない、ということ。

問2 筆者の主張を理解し踏まえた上で、それに対する自らの考えを、根拠を挙げて述べることができるかどうかを問う問題です。

【解答例】省略。

〈2〉 哲学的な議論を展開している外国語（英語）の文章を題材とし、その内容を理解した上で、日本語に適切に翻訳することができるかどうかを問う問題です。

【解答例】(1)：行為の本性に関する因果説は、行為者が為すことと単に行行為者に起こることの間の差異を理解するためのアプローチとして現在もっとも広く支持されているが、この立場にしたがえば、問題の二つのタイプの出来事の間にある本質的な違いは、それらの出来事に先立って存在する因果的連関の中に見出されなければならない。すなわち、この立場によれば、ある身体的運動が行為であるのは、その身体的運動が、それに先行するある種の出来事の結果として生じるとき、かつそのときにかぎられる。

(2)：私の考えでは、ある出来事が行為であるという事実からは、その行為に一つないし複数の原因があるということさえまったく帰結しないし、ましてや、その行為に先立つ原因としてある特定のタイプの出来事が存在するなどということとは帰結しない。

〈3〉 哲学（哲学的な倫理学を含む）における重要な概念の意味内容について、適切に説明することができるかどうかを問う問題です。

【解答例】省略。